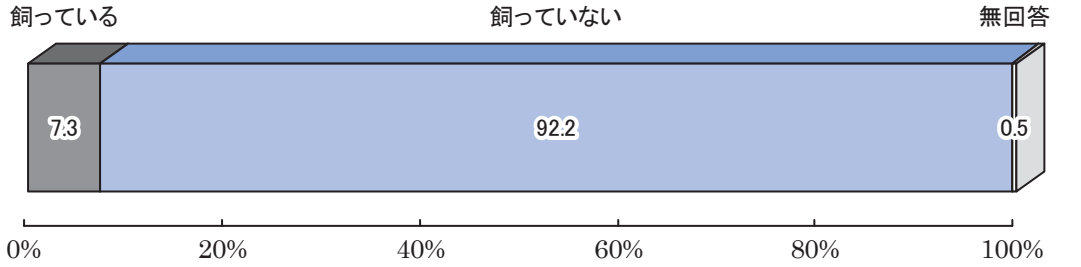
2. “ねこ”の飼育について

問６　あなたは、“ねこ”を飼っていますか？（○は１つだけ）

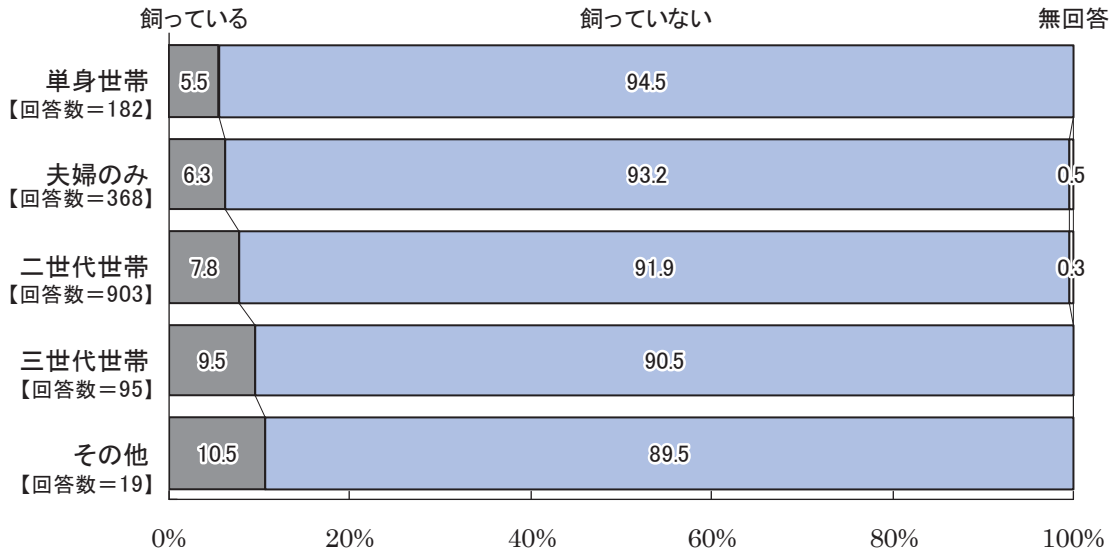
図２－１　ねこの飼育状況



【回答数＝1,645】

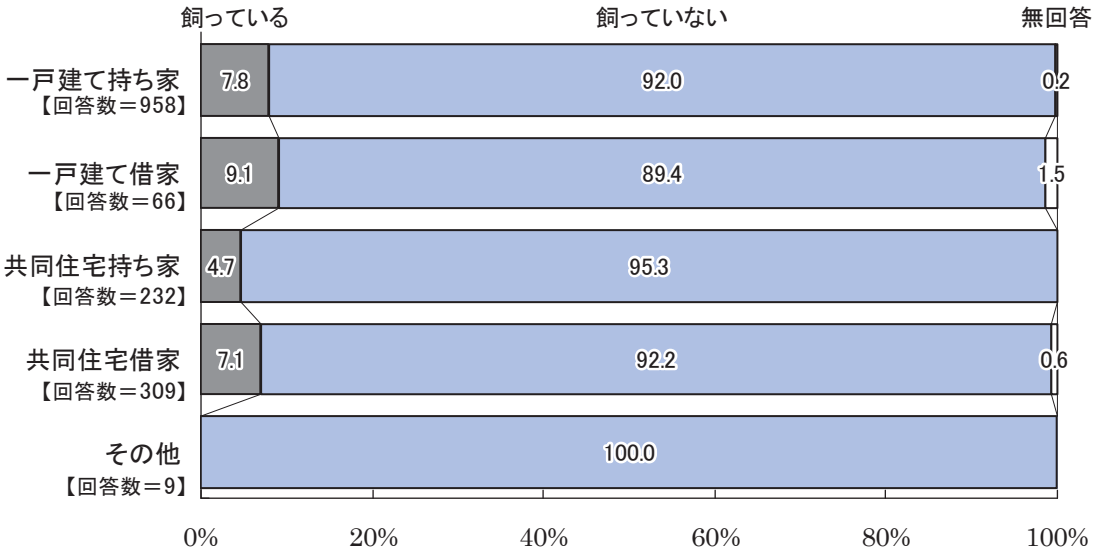
“ねこ”の飼育状況をたずねた。「飼っている」は 7.3%、「飼っていない」が 92.2%となっている。（図 2－1）

図２－２　世帯別　ねこの飼育状況



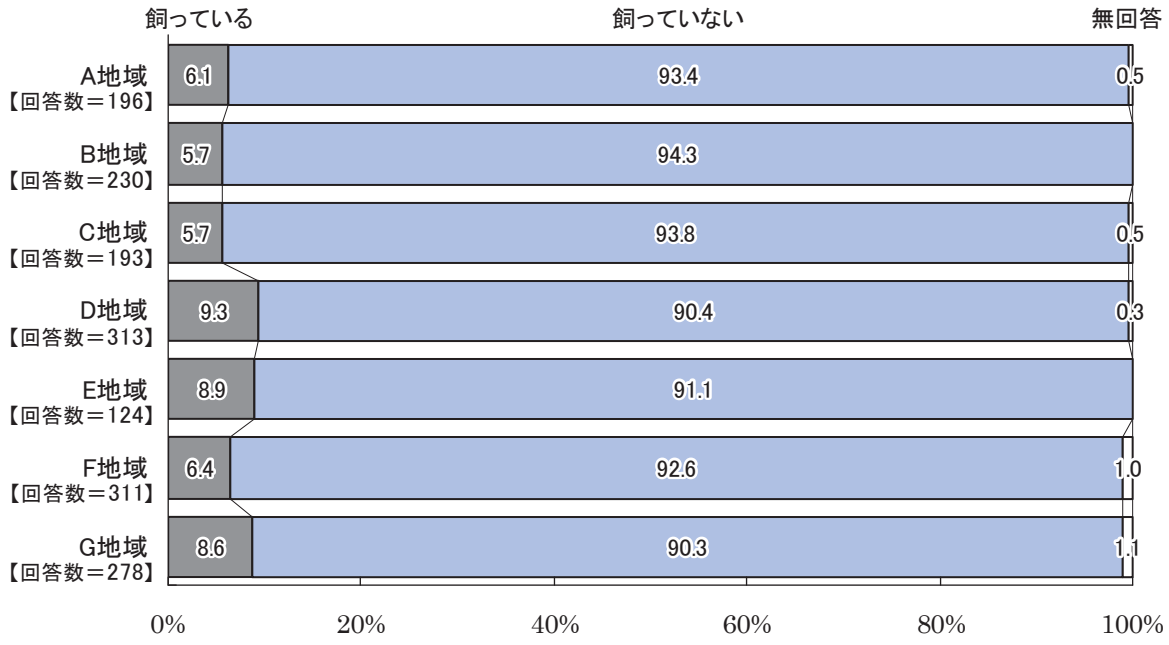
世帯別にみると、「飼っている」は、三世代世帯（祖父母と親と子どもなど）が 9.5%、二世代世帯（親と子どもなど）が 7.8%、夫婦のみが 6.3%、単身世帯（ひとり暮らし）が 5.5%となっている。（図 2－2）

図２－３　住宅種類別　ねこの飼育状況



住宅種類別にみると、「飼っている」は、一戸建てで借家が 9.1%、一戸建てで持ち家が 7.8%、共同住宅で借家が 7.1%、共同住宅で持ち家が 4.7%となっている。（図 2－2）

図２－４　地域別　ねこの飼育状況



地域別にみると、「飼っている」は、D 地域が 9.3%、E 地域が 8.9%、G 地域が 8.6%となっている。（図 2－4）

問６－１　問６で「１　飼っている」に〇印をつけた方におたずねします。飼っている“ねこ”は何匹ですか？　また、その“ねこ”は不妊・去勢手術をしていますか？　それぞれについて“ねこ”の数をお書きください。

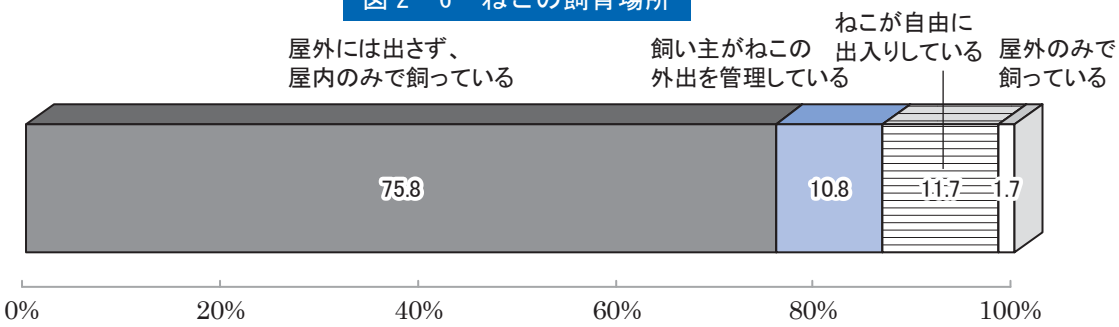
図２−５　ねこの飼育数（飼育数、赴任・去勢数）

	メス	オス
飼育数	126 匹	80 匹
世帯数	77 世帯	58 世帯
最大飼育数	6 匹	7 匹
１世帯あたり飼育数	1.64 匹	1.38 匹
不妊・去勢した数	107 匹	68 匹
処置率	84.9％	85.0％
１世帯あたり処置済数	1.39 匹	1.17 匹

“ねこ”のメス・オス別の飼育数と不妊・去勢手術の状況をたずねた。メスは、77 世帯で合計 126 匹が飼育されており、そのうち、不妊手術されているのは 107 匹であり、処置率は 84.9%となっている。また、オスは、58 世帯で合計 80 匹が飼育されており、去勢手術されているのは 68 匹で、処置率は 85.0%となっている。（図 2−5）

問６－２　問６で「１　飼っている」に○印をつけた方におたずねします。飼育場所はどこですか？（○は１つだけ）

図２－６　ねこの飼育場所

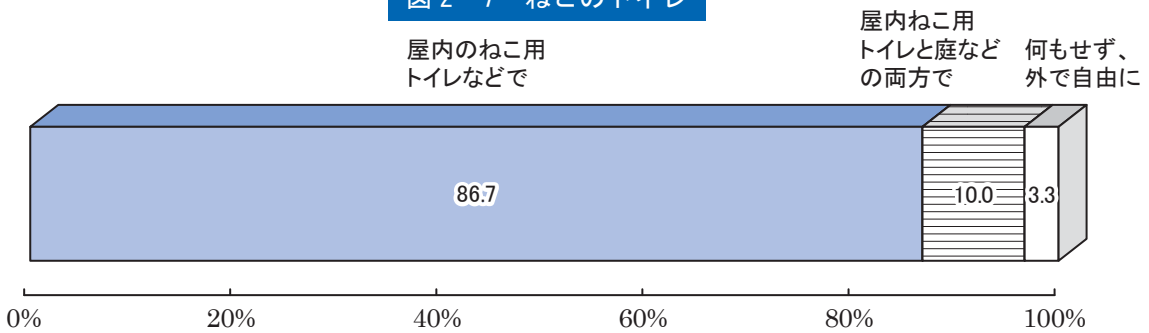


【該当数＝120】

“ねこ”を飼育されている方に、飼育場所をたずねた。「屋外には出さず、屋内のみで飼っている」が 75.8%と最も高く、次いで「ねこが自由に家に出入りできるようにしている」が 11.7%、「飼い主がねこの外出を管理している」が 10.8%、「屋内には一切入れず、屋外のみで飼っている」が 1.7%となっている。（図２－６）

問６－３　問６で「１　飼っている」に○印をつけた方におたずねします。トイレはどうしていますか？（○は１つだけ）

図２－７　ねこのトイレ

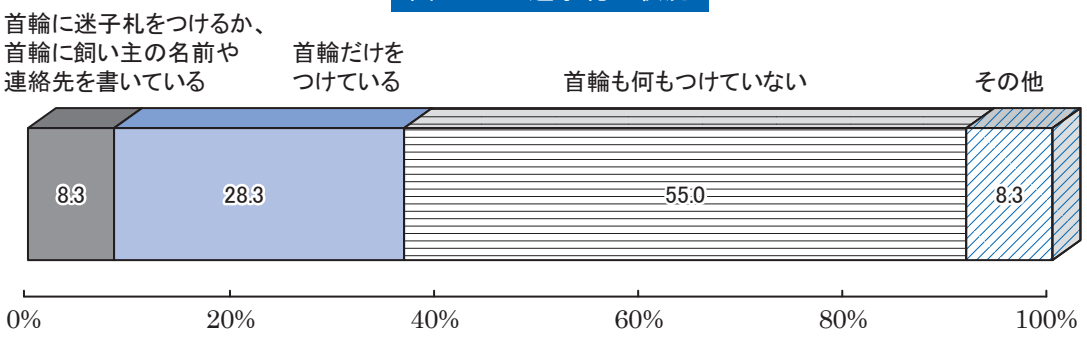


【該当数＝120】

“ねこ”を飼育されている方に、トイレの状況をたずねた。「屋内のねこ用トイレでさせている」が 86.7%と最も高く、次いで「屋内のねこ用トイレなどと庭などの両方でさせている」が 10.0%、「特に何も用意せず、外で自由にさせている」が 3.3%となっている。（図２－７）

問６－４　問６で「１　飼っている」に○印をつけた方におたずねします。迷子札などをつけていますか？（○は１つだけ）

図２－８　迷子札の状況

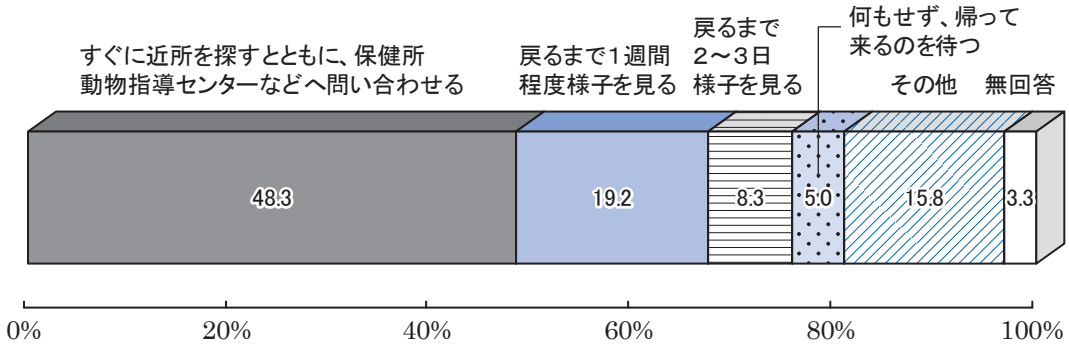


【該当数＝120】

“ねこ”を飼育されている方に、迷子札についてたずねた。「首輪も何もつけていない」が55.0%と最も高く、次いで「首輪だけをつけている」が 28.3%、「首輪に迷子札を付けるか、首輪に飼い主の名前や連絡先を書いている」と「その他」がともに 8.3%となっている。（図２－８）

問６－５　問６で「１　飼っている」に○印をつけた方におたずねします。行方不明になった時、どうしますか？（○は１つだけ）

図２－９　行方不明になった時の対応



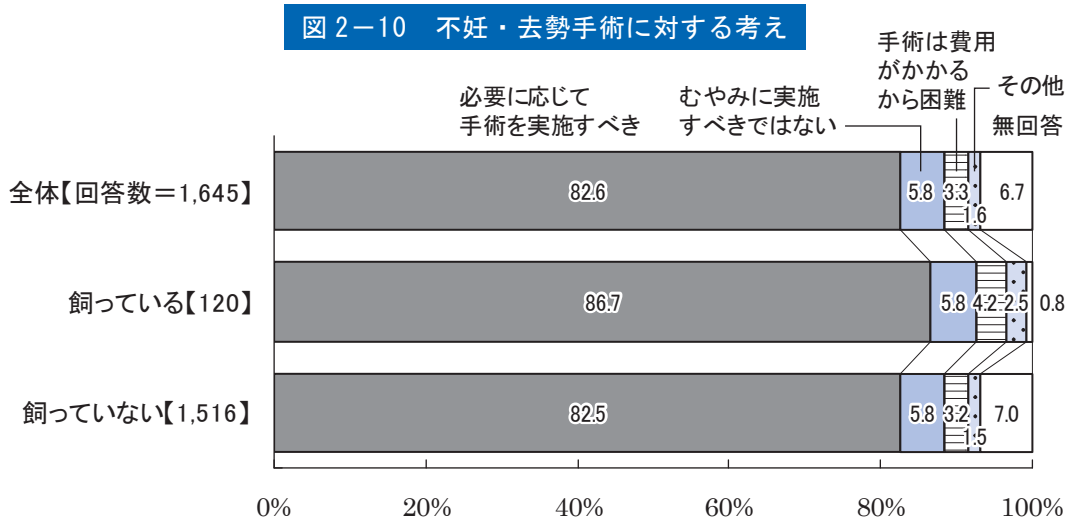
【該当数＝120】

“ねこ”を飼育されている方に、行方不明の際の対応をたずねた。「すぐに近所を探すとともに、保健所動物指導センターなどへ問い合わせる」が 48.3%と最も高く、次いで「戻るまで 2～3 日様子を見る」が 19.2%、「その他」が 15.8%、「戻るまで、1 週間程度様子を見る」が 8.3%、「何もせず、帰ってくるのを待つ」が 5.0%となっている。（図 2－9）

問７　不幸な命を増やさないために、飼い主の責務において繁殖制限をするべきであるといわれています。

問７－１　あなたは、不妊・去勢手術についてどう思いますか？（○は１つだけ）

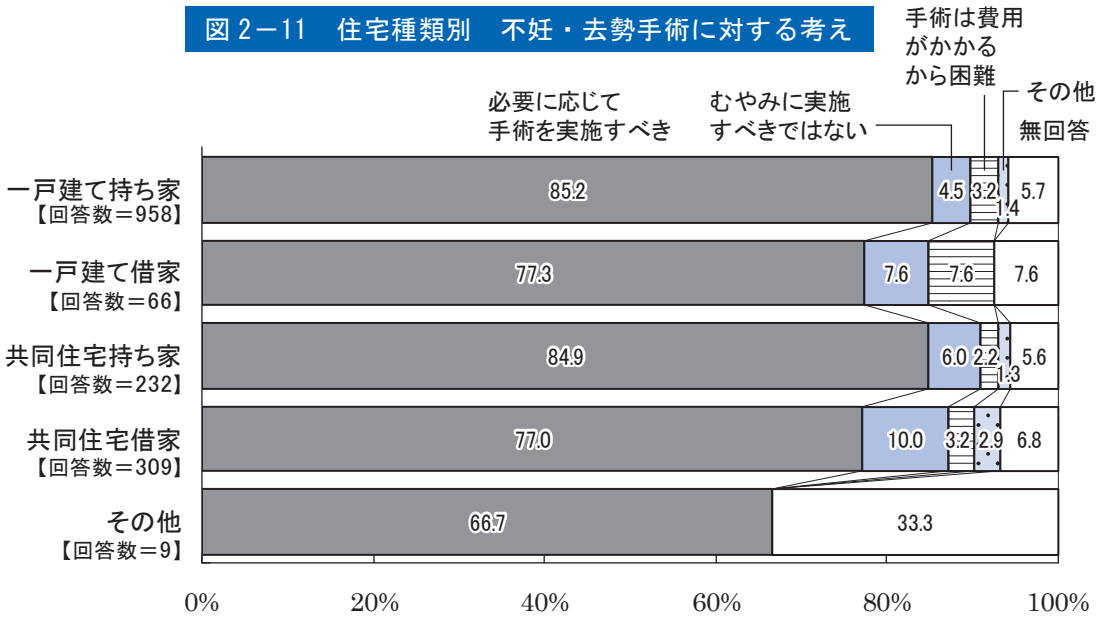
図２－10　不妊・去勢手術に対する考え



“ねこ”の繁殖制限に関して、不妊・去勢手術の考えをたずねた。「必要に応じて手術を実施すべき」が 82.6%と最も高く、次いで「ねこにとっても苦痛や危険が伴うので、むやみに実施するべきではない」が 5.8%、「手術は費用がかかるから困難」が 3.3%、「その他」が 1.6%となっている。

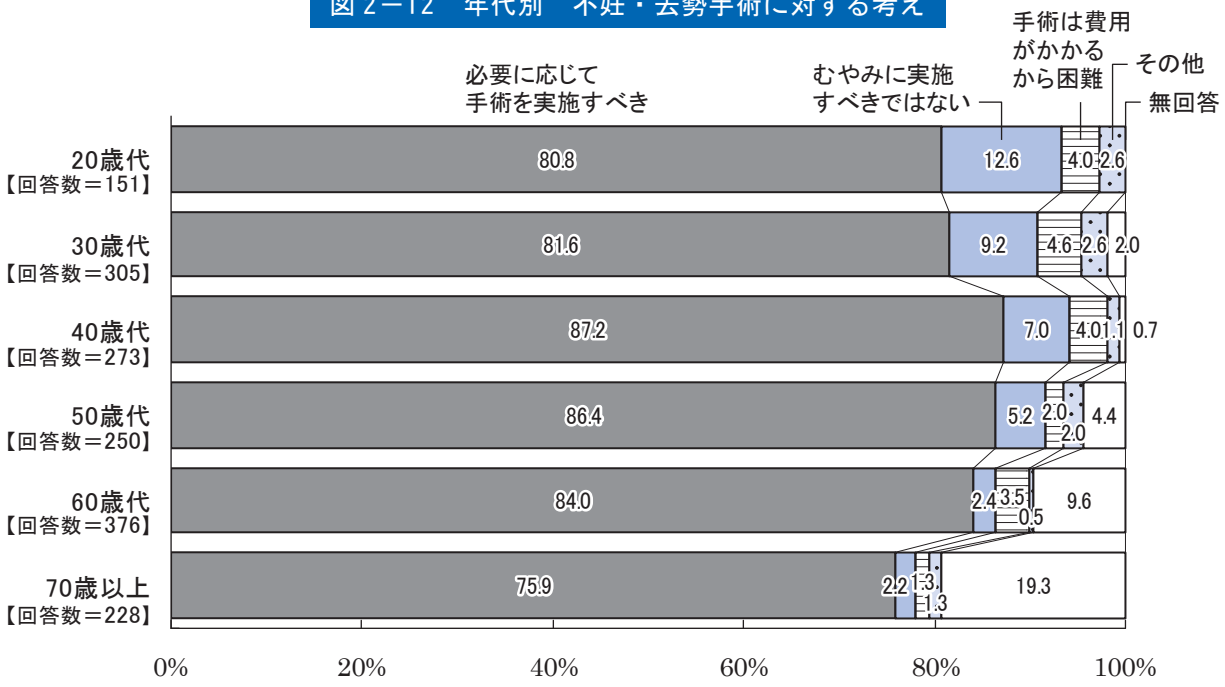
“ねこ”を飼っている方は、飼っていない方に比べて「必要に応じて手術を実施すべき」が 4.2 ポイント高くなっている。（図 2－10）

図２－11　住宅種類別　不妊・去勢手術に対する考え



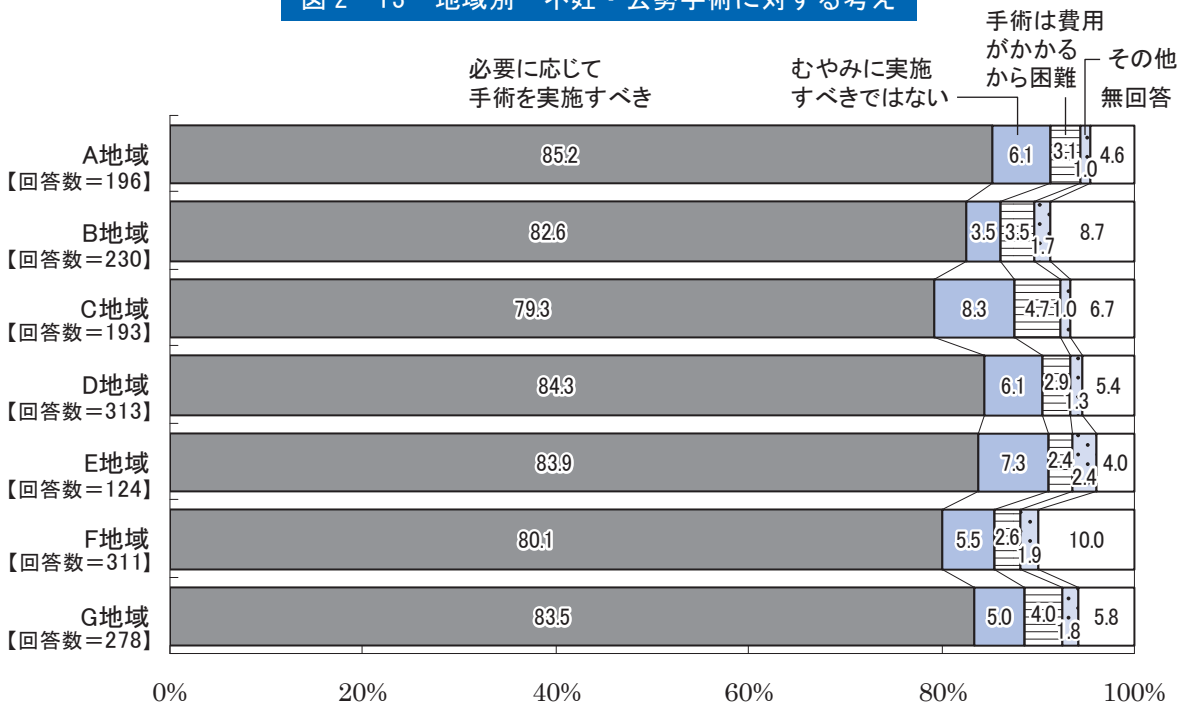
住宅種類別にみると、「必要に応じて手術を実施すべき」は、一戸建てで持ち家が 85.2%と最も高く、次いで共同住宅で持ち家が 84.9%、一戸建てで借家が 77.3%、共同住宅で借家が 77.0%となっている。（図 2－11）

図 2－12　年代別　不妊・去勢手術に対する考え



年代別にみると、「必要に応じて手術を実施すべき」は、いずれも 7 割を超えており、特に 40 歳代が 87.2%と高くなっている。「ねこにとっても苦痛や危険が伴うので、むやみに実施するべきではない」は、20 歳代が 12.6%と高くなっている。（図 2－12）

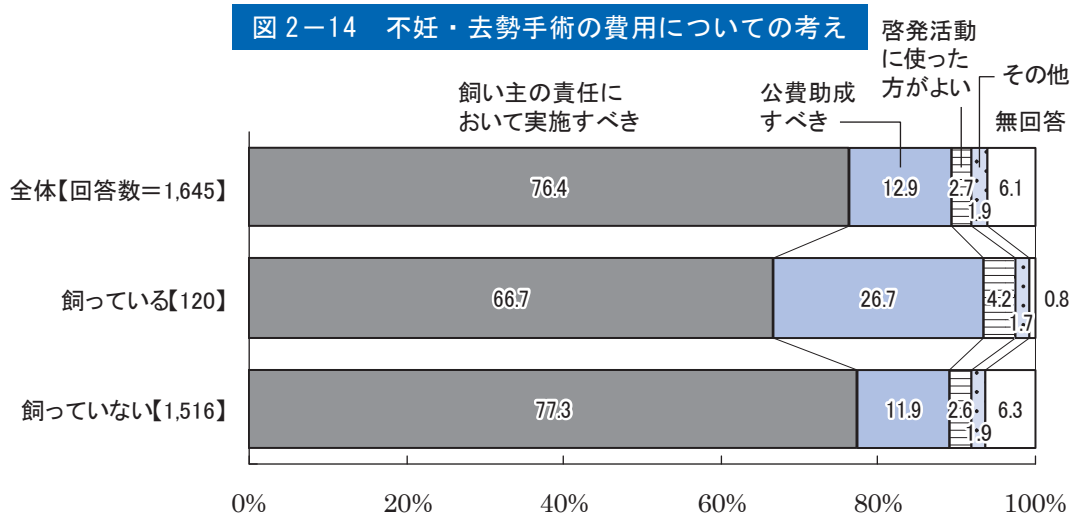
図 2－13　地域別　不妊・去勢手術に対する考え



地域別にみると、「必要に応じて手術を実施すべき」は、C 地域が 79.3%となっており、その他の地域は 8 割を超えている。「ねこにとっても苦痛や危険が伴うので、むやみに実施するべきではない」は、C 地域が 8.3%と高くなっている。（図 2－13）

問７－２　あなたは、不妊・去勢手術の費用についてどう思いますか？（○は１つだけ）

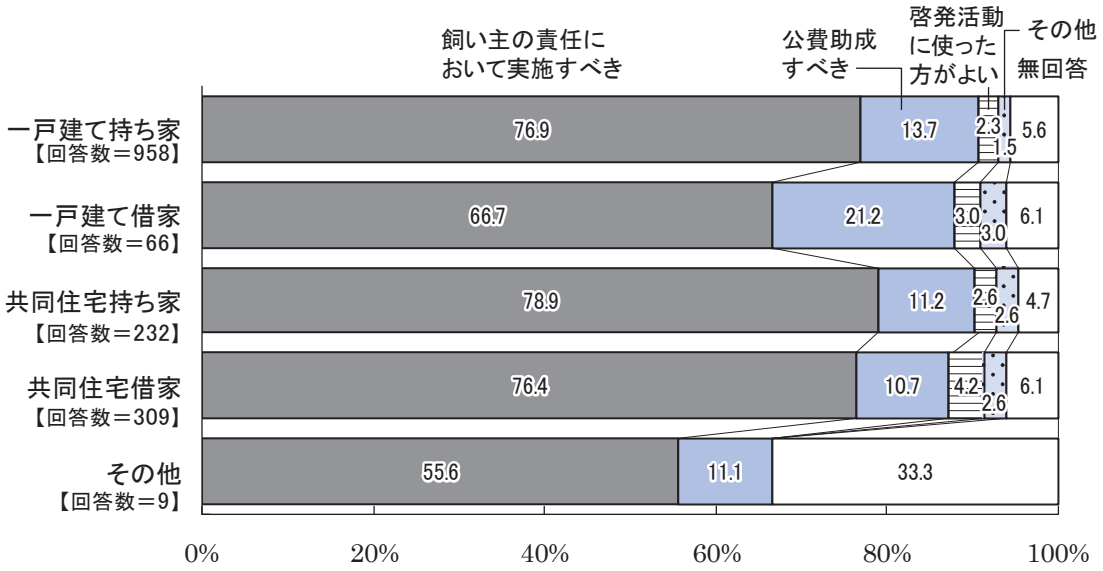
図２－14　不妊・去勢手術の費用についての考え



“ねこ”の不妊・去勢手術の費用についての考えをたずねた。「飼い主の責任において実施すべき」が 76.4%と最も高く、次いで「公費助成すべき」が 12.9%、「助成ではなく、啓発活動に使った方がよい」が 2.7%、「その他」が 1.9%となっている。

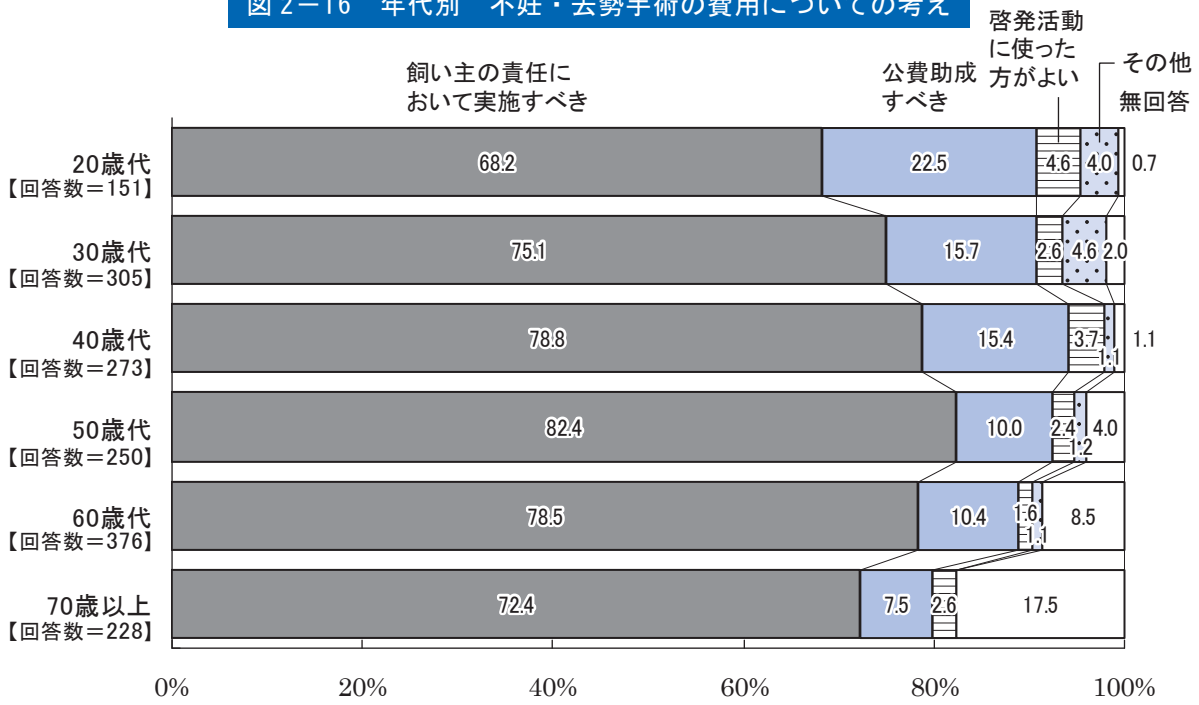
“ねこ”を飼っている方は、飼っていない方に比べて「公費助成すべき」は 14.8 ポイント高く、「飼い主の責任において実施すべき」は 10.6 ポイント低くなっている。（図 2－14）

図２－15　住宅種類別　不妊・去勢手術の費用についての考え



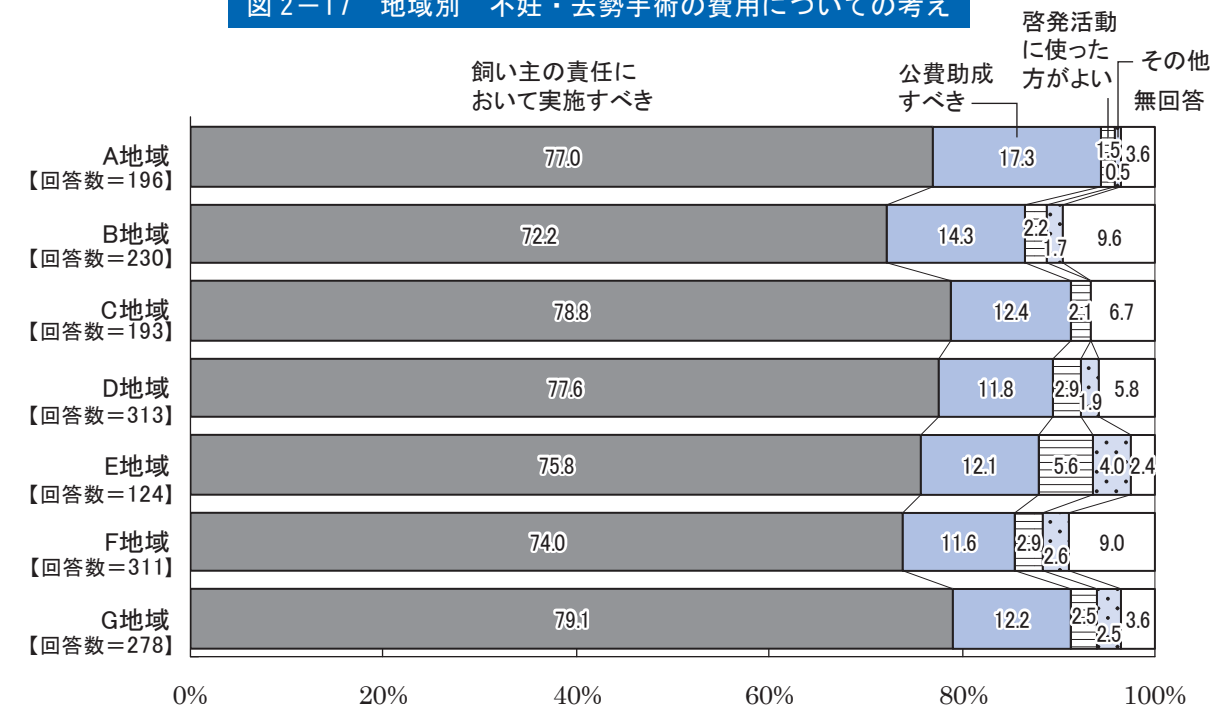
住宅種類別にみると、「飼い主の責任において実施すべき」は、共同住宅で持ち家が 78.9%と最も高く、次いで一戸建てで持ち家が 76.9%、共同住宅で借家が 76.4%となっている。「公費助成すべき」は、一戸建てで借家が 21.2%と高くなっている。（図 2－15）

図 2－16　年代別　不妊・去勢手術の費用についての考え



年代別にみると、「飼い主の責任において実施すべき」は、いずれも 6 割を超えており、特に 50 歳代は 82.4%と高くなっている。「公費助成すべき」は、20 歳代が 22.5%と最も高く、次いで 30 歳代が 15.7%、40 歳代が 15.4%となっている。（図 2－16）

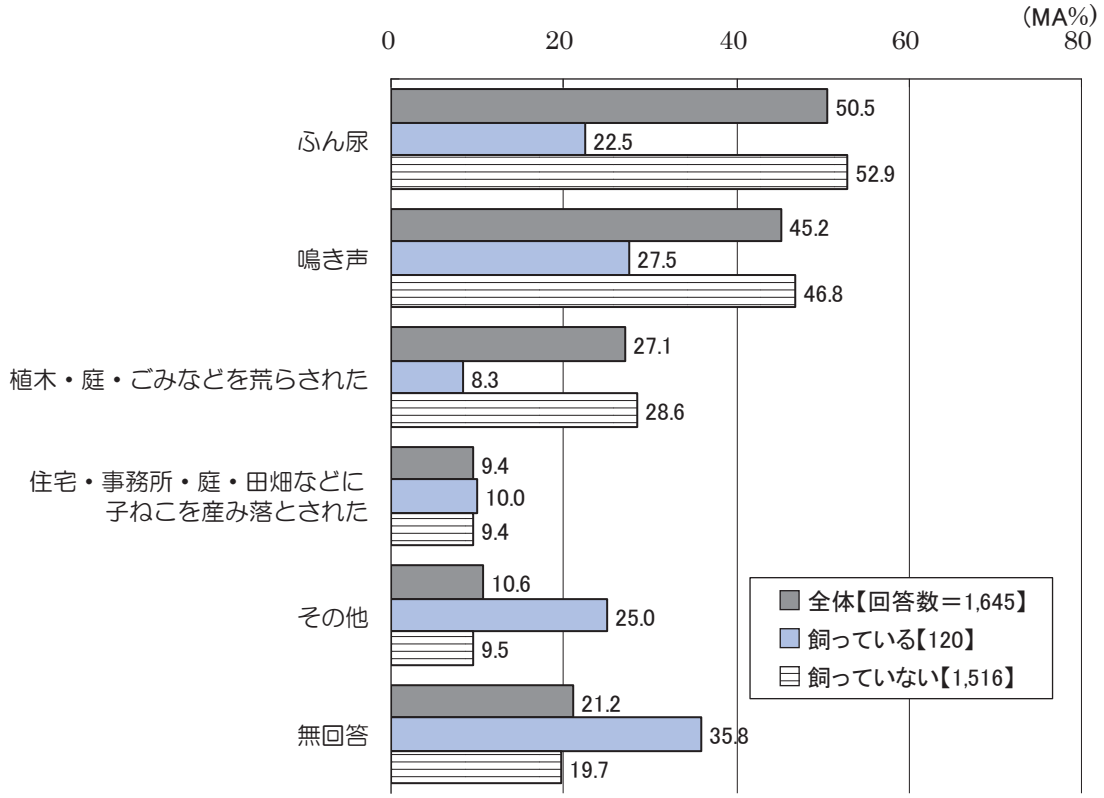
図 2－17　地域別　不妊・去勢手術の費用についての考え



地域別にみると、「飼い主の責任において実施すべき」は、いずれも 7 割を超えている。「公費助成すべき」は、A 地域が 17.3%と最も高く、次いで B 地域が 14.3%となっている。（図 2－17）

問８　あなたは、ここ２～３年の間に“ねこ”による迷惑を受けたことがありますか？
（○は**いくつでも**）

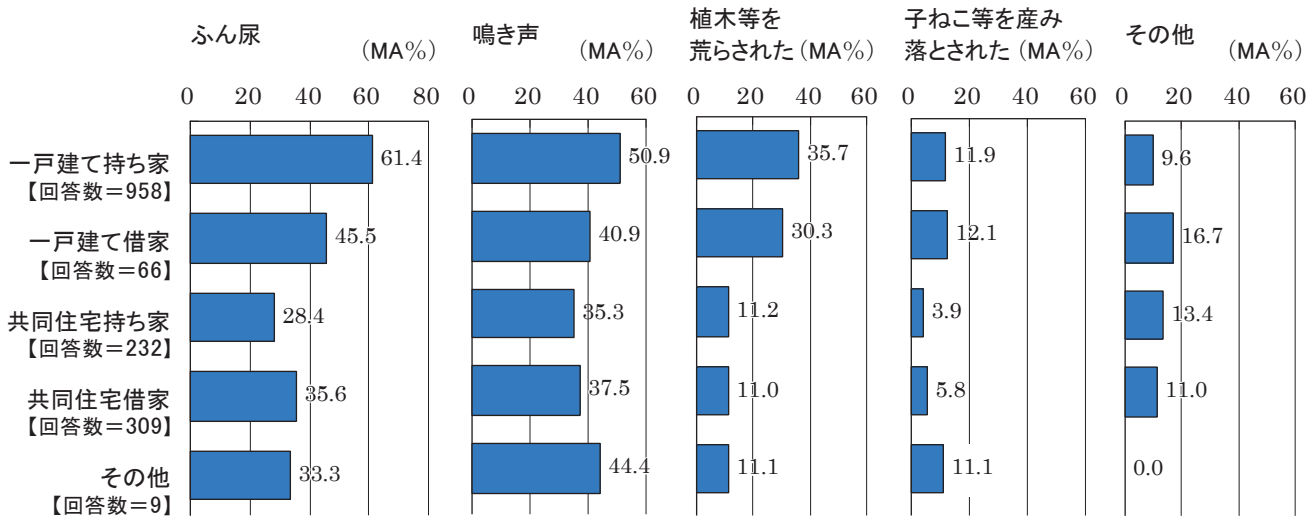
図２－18　ねこによる迷惑の状況（複数回答）



“ねこ”による迷惑の経験（複数回答）をたずねた。「ふん尿」が 50.5%と最も高く、次いで「鳴き声」（45.2%）、「植木・庭・ごみを荒らされた」（27.1%）、「その他」（10.6%）となっている。

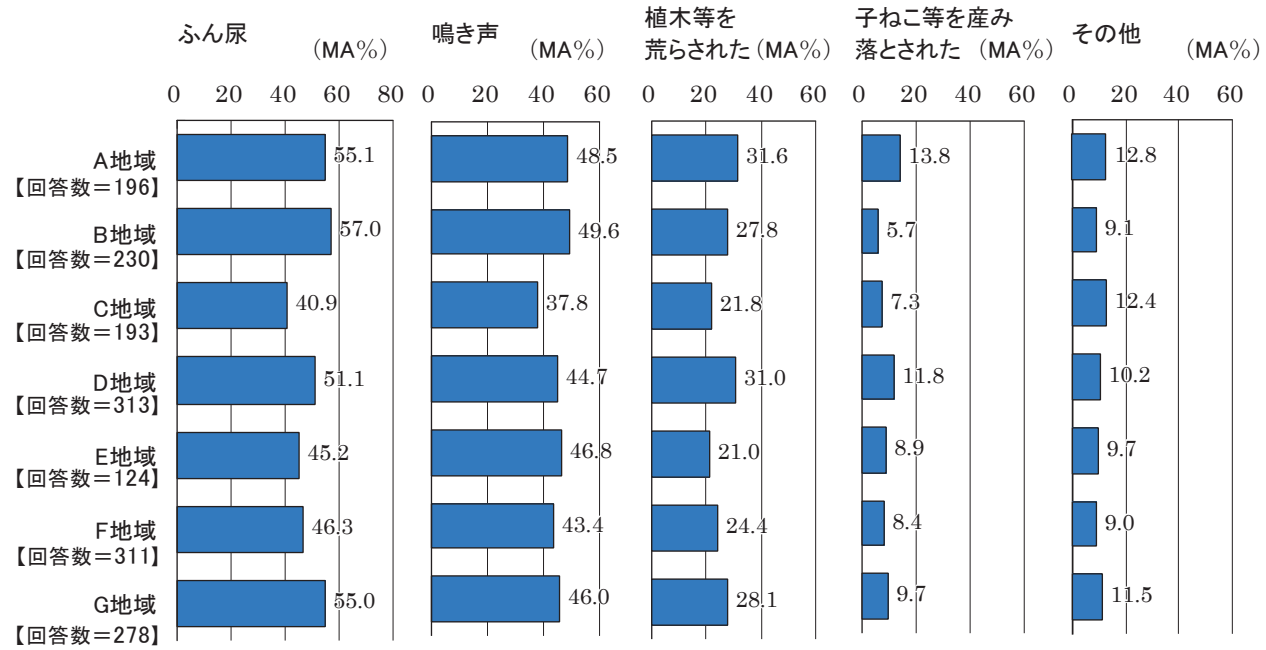
“ねこ”を飼っている方は、飼っていない方に比べて『迷惑』の回答が少なくなっている。（図 2－18）

図 2－19　住宅種類別　ねこによる迷惑の状況（複数回数）



住宅種類別に上位 5 項目をみると、一戸建てで持ち家は、「ふん尿」（61.4%）、「鳴き声」（50.9%）、「植木・庭・ごみなどを荒らされた」（35.7%）が他の住宅に比べて高くなっている。また、共同住宅で借家と共同住宅で持ち家は、「鳴き声」がそれぞれ 37.5%、35.3%と最も高くなっている。（図 2－19）

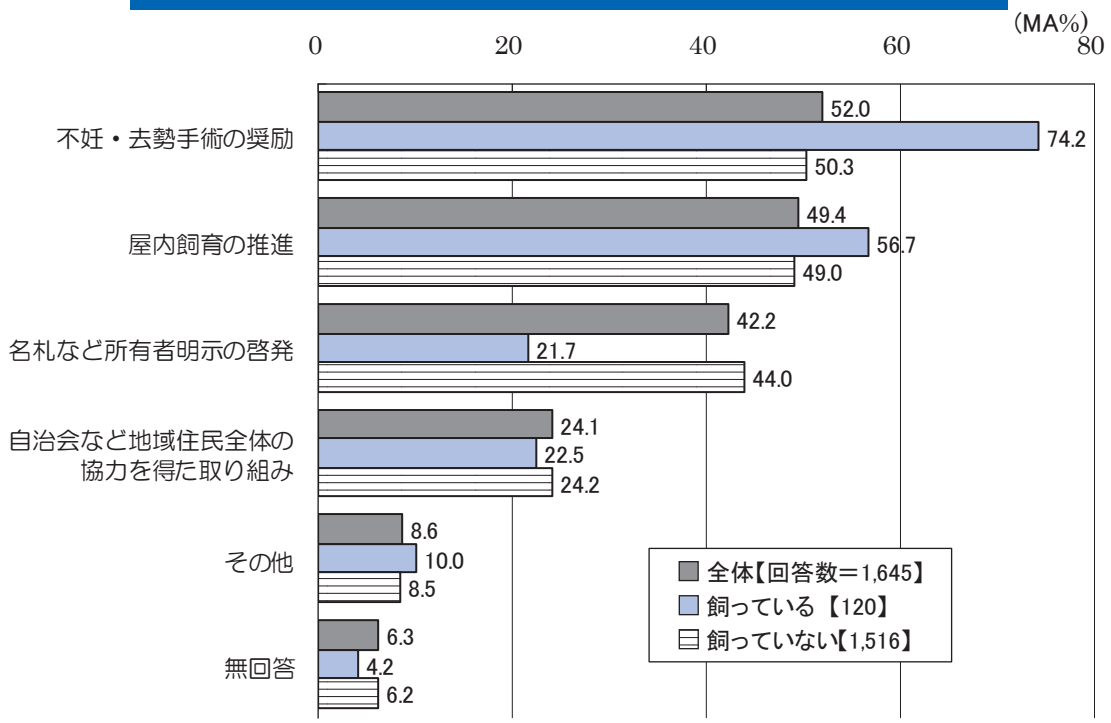
図 2－20　地域別　ねこによる迷惑の状況（複数回数）



地域別に上位 5 項目をみると、「ふん尿」は、B 地域が 57.0%と最も高く、また「鳴き声」は、B 地域が 49.6%と高くなっており、どちらも C 地域は他の地域に比べて低くなっている。「植木・庭・ごみなどを荒らされた」は、A 地域が 31.6%と最も高く、E 地域は 21.0%と他の地域に比べて低くなっている。（図 2－20）

問９　あなたは、“ねこ”による迷惑を減らすために今後どのような取り組みが効果的と思いますか？（○は**いくつでも**）

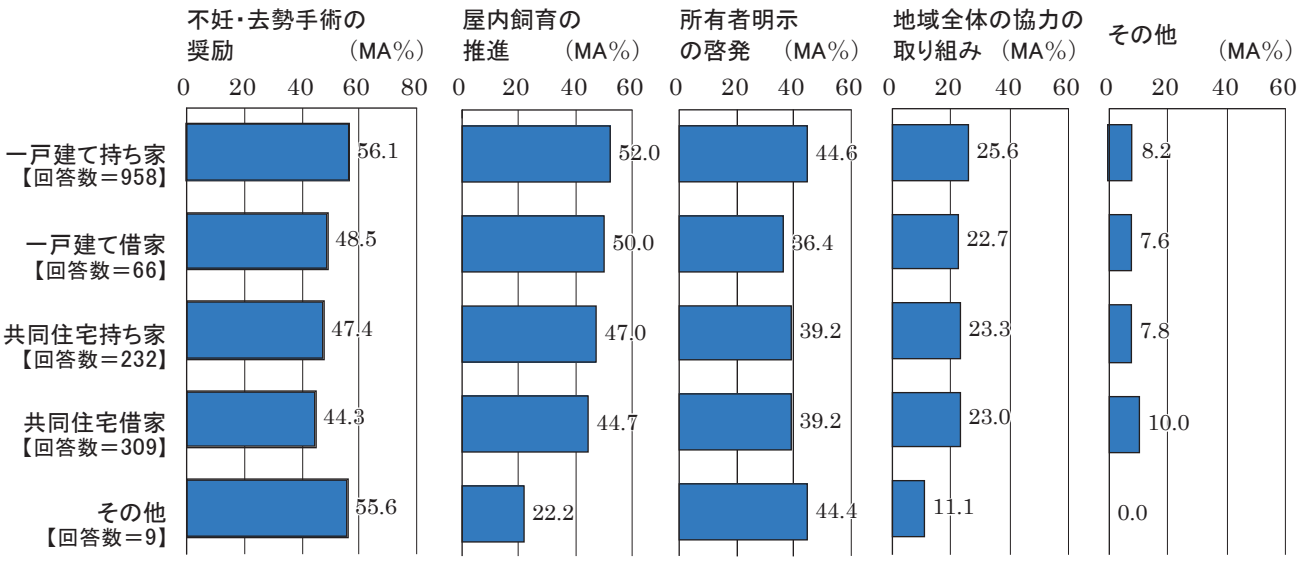
図 2－21　ねこの迷惑を減らすための効果的な取り組み（複数回答）



“ねこ”による迷惑を減らすための今後の取り組み（複数回答）をたずねた。「不妊・去勢手術の奨励」が 52.0%と最も高く、以下「屋内飼育の推進」（49.4%）、「名札など所有者明示の啓発」（42.2%）、「自治会など地域住民全体の協力を得た取り組み」（24.1%）などの順となっている。

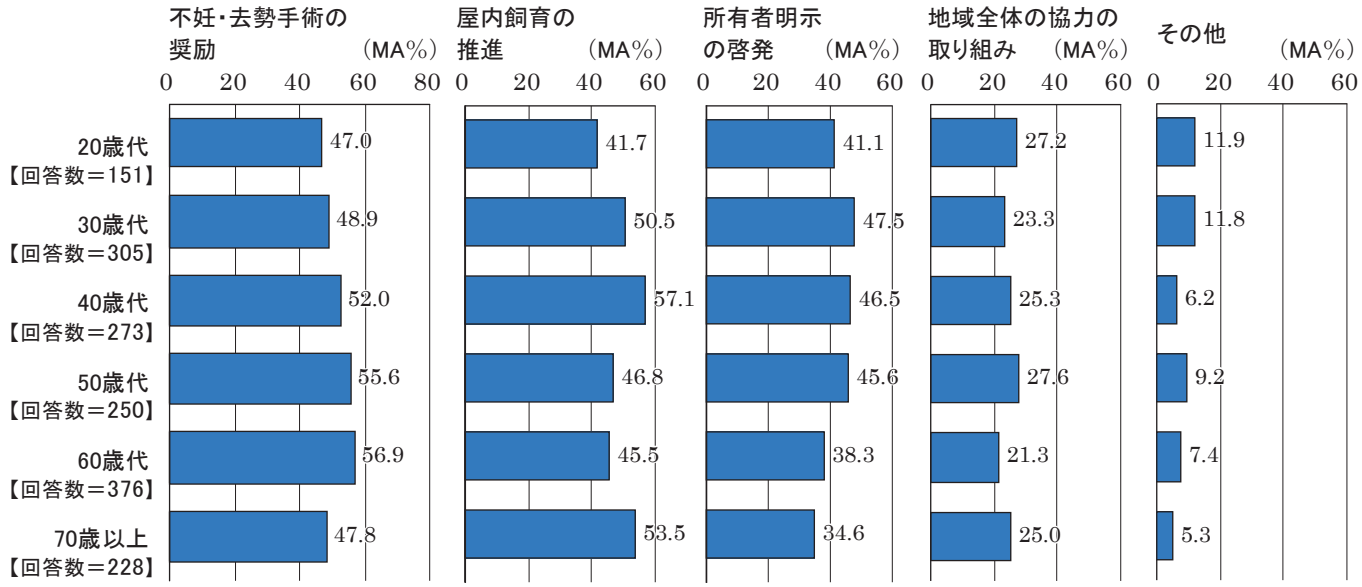
“ねこ”を飼っている方は、「不妊・去勢手術の奨励」が 74.2%と最も高く、次いで「屋内飼育の推進」が 56.7%と高くなっている。（図 2－21）

図 2 -22　住宅種類別　ねこの迷惑を減らすための効果的な取り組み（複数回数）



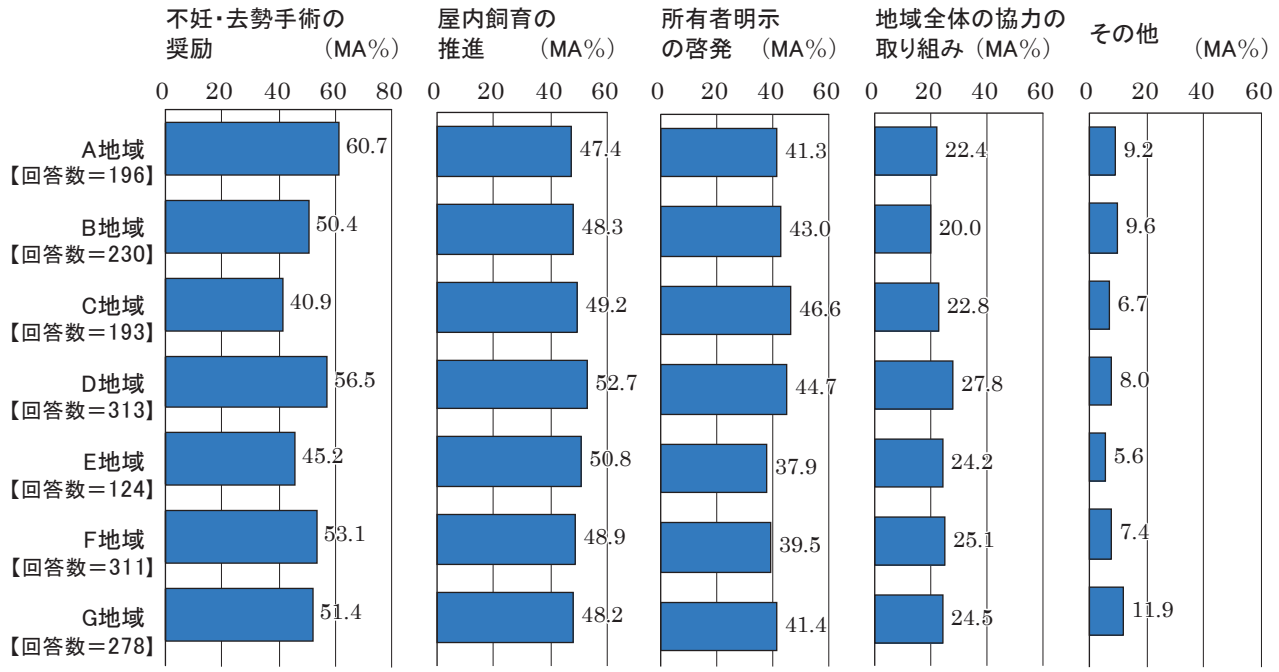
住宅種類別に上位 5 項目をみると、一戸建てで持ち家が「不妊・去勢手術の奨励」、「屋内飼育の推進」、「名札など所有者明示の啓発」、「自治会など地域住民全体の協力を得た取り組み」の 4 項目で最も高くなっている。（図 2－22）

図 2 -23　年代別　ねこの迷惑を減らすための効果的な取り組み（複数回数）



年代別に上位 5 項目をみると、「不妊・去勢手術の奨励」は、60 歳代が 56.9%と最も高く、また、「屋内飼育の奨励」は、40 歳代が 57.1%と最も高くなっており、20 歳代は他の年代に比べてともに低くなっている。「名札など所有者明示の啓発」は、30 歳代が 47.5%と最も高く、70 歳以上（34.6%）は他の年代に比べて低くなっている。（図 2－23）

図２-24　地域別　ねこの迷惑を減らすための効果的な取り組み（複数回数）



地域別に上位 5 項目をみると、「不妊・去勢手術の奨励」は、A 地域が 60.7%と最も高くなっている。また、「屋内飼育の奨励」は、D 地域が 52.7%と最も高く、「名札など所有者明示の啓発」は、C 地域が 46.6%と最も高くなっている。（図 2－24）